

不中受然も交此程より為船中用肉相亦に塩水より
或は琉球品物類土産用としく過るに亦求毎に海軍を
平存載答庸婦の肉に喫船後来りしとありて先是
格付直に琉人其に中喫の由を喫人より去年五月廣東
より山舟高海来りて喫國より迎船迎別無是後ハ後
之何なる者哉夫は漂着船未お流に儀共よりと云
哉定於琉球を致拜儀ハ年中執り且又於廣東佛人方
江後出入り通る唐人の佛必船を當八九月十日迄二
無琉球に在後答の各唐人に吐く趣於福及琉球人
共是南の海中載に相残に佛人其喫人妻も唐人年親
存在於角迎船をお流者ハ船子小お見入に迎船後来
之止事及理解一同穩小列海ハ船前斗多於度琉球

りり中越ハ若付るに高秋迄若迎船後来りて之ハ
列取に儀由秋進貢船より又清國に自厚船中載
り格り後多望中自執ハ越長崎よりハ委曲未達ハ
此取由届中達ハ以上

嘉永元年
八月七日

松平大隅守

①八 私領琉球國に去辰年佛爾西船来りて彼國に和好
交易等三ヶ條許容り有之に左に得る琉球必速意
之可及扱品之雜類中扱に得る琉球品ハ國高交易程
未調殊清國之商展儀古より孔孟之道をお學ハ文國
之より右三ヶ條之儀を何事疑名甘意方致難^歎ハ得

共中ニ聞入ル事ニ多ク是若許容ニ致若得テ琉球ヲ購目
ニ聞ニ戻燈ニテお事松品ニ威振ハ得テ大國ト小國ト
易ク取組ハ儀ト實ニ以難お調ト眼オ在幾度モお針
テ後天徳兵船渡来報顯中抵ル所ニ只管改懸祈ハ
交天徳兵ニテ致承知ル所ニ一在帰國ニ上達國往来
年モ渡来何カノお達仍ル通ルニ為佛人殘直打取
然共翌年渡来多クテ此等ノ通ル中ニ通リ上
中ニ右松品ニ及テ致何カノ打取報見ル所ニ琉球年
ニ速悉クモお及且私父子ハ 旨出報有由同命ニ此皇
厚キ教承知ル所ニ自他ニ任ル所ニ右松品高急ニ打取ル
日等ノ中ニ有ル上皇清國ニ使者差渡致歎形ハお者ニ
る及リ同其通取斗ル報中山王是攝政三司官ニ委細中

聞ハ交一昨午年池城親方清必江差渡皇帝江致歎
形ハ以深切ニ打交早速廣東滞留ニ佛爾西人江打取
ル候ニ琉球儀為申報由リ交是以テ極端汲交若ク者申
報ハ方同人モ琉球江差渡致見候ル如何極小國ハ
交ル所お調ハ國柄ニ多クテ琉球報濃ル所ニ近船是滞
留佛爾西人打取ル報可取平姓來返答承知ル所ニ
偏中上皇通ル所ニ中ハ物交由七月廿八日異國船ニ被帆
影お見ル所ニ舟船ニ多クお居ル所ニ交漸ク近キ地方
四五里程沖江卸碇ル所ニ小船より役ニ差裁ハ打柄遠為
佛爾西人望遠鏡を以テ旗印を見ル所ニ本國近船お遠為
之差裁度ニ出ル所ニ舟乗セ舟灣出右異國船より打柄船
船灣来リ以達ニ交孫佛必船高遠留佛人モ彼方橋

船江奈移の留琉球後と共右佛由本船江棄舟の舟
通多兼合多より付還る佛人の来者之於才旦兼組人取
亦お尋り交本船を政羅巴之属高より兼組五百人程
より出帆日数十日に及来者より是は廣東奥門に在り
寄越中より物交翌廿九日佛由船を改行外水より
四十人余獲船より還る佛人俱に發上陸直に佛人召出
寺に差越り付布政官宗法に面會して安否を問ひ
残置の佛人長に發後後君の舟此度列島の事及接
扱の内還る佛人より身廻り道具 發付類迄を
而残獲船にお運一同お名に及接扱別而差急還る佛人
召列本船に高祖等時分年未の方に向發出帆の物より
去辰年より五ヶ年の留交代迄を以て三ヶ條之報題を

外苦情而已為申撰佛人等々平穩に引取國中一統發安
人の將又還る嘆人儀佛國船来者之昂為見廻差越後
中出小船に差越出帆の昂を濱邊に高お分是素より嘆人
傷方一昨年後來醫道務南方雪中借船二十人位高に
小船高廣東より後來還る者より佛人引拂の舟を自
分の引取より報を於清田福に認督より池城親方承
りの由右右医師を昨年より迎船發後來琉球器物
亦外土産品お求或本船中用迎肉お出塩杯のり
迎船お待の報有是以不違引取の事と琉球後と異國許
より差後より後と共より申撰を兩端向行以堅固中
付通の多此昂に本船中撰の舟者崎首の江委由お達
由國元お尋共人中撰の此由は内中達に以上

嘉永元年

十一月十一日

松平大隅守

其

嘉永三年正月廿八日 入港以後 但少暇と命

松平大隅守

大船松海伊勢守中流に在中列我書付候

其候由し候

松平大隅守

流疎小川流致候事有及人共之候と付之候事

津浦に之 此合に 津致候事候に在り候事候方之候

波は起息と加へ候事候上之候事候に 佛朗西人

之候と候事候事候 川拂り候事候一巻と 津安志

之候一候と事候 思ふに之候事候未始候候候

と名おふり候事候 津安志に之候と候事候

取合候事候と候事候又之候事候と加へ候事候

川拂一候と事候 津安志にお候り候事候

又お候り候事候人官と川拂り候事候と候事候

中候事候と候事候津安志に之候と候事候

候事候心地に之候事候津安志に之候と候事候

候事候 津安志にお候り候事候と候事候

との 津安志に之候事候